

トークイベント
『センス・オブ・ワンダー』

4

東京大学総合研究博物館所蔵の資料体から、明治以降の日本における「工学」分野の黎明期を支えた田中家の二人の仕事を紹介し、日本の近代化プロセスを文化史的に考えます。

田中林太郎（安政3-大正13年）は工部大学校機械学科卒業後、工部省技手、内匠寮技師を務め、皇居（明治宮殿）造営に携わったほか、東宮御所御造営局技師として、東宮御所（現迎賓館）造営に参画し、暖房設備関係業務を担当しました。田中不二（明治10-大正11年）は東京帝国大学工科大学機械工学科を卒業し、後に同大学教授を務め、わが国最初の日本語による機械設計の教科書を執筆しました。田中家は江戸から明治時代にかけて発明家として活躍した「からくり儀衛門」の系譜に連なり、近代日本の工学技術発展に寄与した一族です。

田中不二

1877-1922

田中家と工学主義

— 林太郎・不二の仕事を中心に —

1857-1924

田中林太郎



【講師】

寺田 鮎美 氏

東京大学総合研究博物館インターメディアテク寄付研究部門特任准教授。

専門は博物館研究及び文化政策研究。ミュージアムのコレクション活用、空間・展示デザイン、利用者コミュニケーション等に関する新たな方法論を探究し、現代社会のなかでミュージアムが多様な価値を創造していく場となるための理論的、実践的研究を行っています。

2017.10.12【木】

12:20-13:20 | 受付開始 11:50

【会場】工2号館図書室 | 工学部2号館北棟5階

【定員等】50名、先着順、申込不要、参加費無料

【主催】東京大学工学部・工学系研究科、
情報理工学系研究科

【共催】駒場博物館【協力】東京大学文書館

【問合せ】工学・情報理工学図書館

03-5841-6731, kogaku2@lib.u-tokyo.ac.jp

※障害等のため設備・情報保障等の配慮が必要な場合は、事前にご連絡ください。